

第8回群馬自然探索会「下仁田ジオパーク」報告

群馬県支部副支部長 岩崎利一（S51・化学）

11月3日、中央構造線を見て来ました。小・中学校で名前を聞いてから地学を専攻しなくても憧れの言葉で有り続けた「フォッサマグナと中央構造線」。群馬県のジオパークとして下仁田が選定されたのは2011年9月、中央構造線が関東以東で唯一見られる所と知ったのは極最近。

当日は11月なのに台風21号が発生し熱帯低気圧になっても前日まで降り続きましたが好天に恵まれ、群馬支部会員が7名、県外から4名、未来の会員候補の子供も含めて14名で集合地の高崎駅を出発、1時間ほどで、ネギで有名な下仁田町へ。ジオパークとしては町を中心に配し散歩し易い距離に有りますが、何せ年配者が多い連れ合い、車で回る事にしました。

まず、「道の駅しもにた」で情報を得て、かぶら川沿いの「宮室の逆転層(地層も地層の中も下の方が新しい)」を目指し、大桑原のしゅう曲・下仁田自然史館・跡倉クリップすべり面とまわり、お昼は下仁田名物わらじのようなカツ丼をいただきました。午後は、本命の中央構造線である川井断層へ、



「中央構造線は、中国東北 大桑原のしゅう曲

部沿岸で出来た細やかな砂岩の下仁田層と、太平洋から押されて中国東沿岸に着いた後、現在の日本の位置まで、押し戻されて出来た三波川帯の岩石が一部剥がれてくっついて日本のもとになる基盤岩ができた。そのくっついた線・面です。」と説明が有りました。(三波川は、かぶら川の南に位置する川で、産出する三波石として有名)



中央構造線

当日は川の水量があり近くまで行けませんでした、あれが中央構造線と納得。

諏訪神社(下仁田層の化石)・青岩公園とまわり、帰路につきました。

帰り路、かぶら川の橋の上から、群馬のギアナ高地である荒船山が夕日に映え別れを告げていました。



青岩公園



下仁田自然史館



荒船山